



新座中だより

平成23年3月1日発行
新座市立新座中学校

学校教育目標
強く 明るく 考える

TEL 048-478-3668 048-478-3744 ホームページ <http://www.c-niiza.ed.jp/j-niiza/>

平成22年度新座中学校の学校評価結果の状況をお知らせします。これをもとに次年度の教育活動の改善を図ってまいります。

【表の見方】

- ・「自己評価」は新座中学校の教職員が評価したものです。
- ・「学校関係者評価」は、本校の「自己評価」をもとに学校関係者評価委員会で評価したものです。
- ・評価はA～Dの4段階です。Aは9割以上(かなりできている)、Bは6割以上9割未満(概ねできている)、Cは2割以上6割未満(基準に達していない)、Dは2割未満の達成状況(ほとんどできていない)。

評価項目「組織運営」

	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、学校教育目標達成に向けて、組織的に運営し、特色ある学校づくりに取り組んでいる。	B	学校教育目標は各教室に掲示され、また、校歌の歌詞にも歌われており、生徒・保護者・職員への周知徹底はできている。合唱祭や体育祭・修学旅行やスキー教室などの各行事目標設定に関しても学校教育目標の具現化の意識が達成されている。	A	学校教育目標の具現化を意識して教育活動に取り組んでいることがわかる。校長のリーダーシップのもと行事の取り組み、読み聞かせ、野火止クリーンキャンペーンと、きめ細かく、意欲的に取り組んでいる。体力の向上についても新しい取り組みがみられる。特色を出すのは難しいことだが、まだやることはあり、さらに目標を高くしてほしい。
2	教職員は、自己評価シートと連鎖させ、学年・学級経営、教科経営や校務分掌にあたっている。	B	各自がシートにもとづいて教育活動を進めており、自己の課題の達成に向けて努力している。また、管理職との面談を通じてPDCAサイクルを生かした見直し、改善作業も行っている。	B	先生方はよくやっている。PDCAサイクルを生かした活動はもっと時間を確保して次年度の経営に生かしてほしい。先生方は取り組む時間が足りない中で意欲的に教育活動に取り組んでいることは評価できる。
3	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し迅速に対応できる体制を整えている。	B	年度当初の職員会議等で各種マニュアルが提示され、必要に応じて掲示し共通意識を持っている。企画委員会や生徒指導部会、教育相談部会等で週一回のペースで報告し合い具体的な手立ての立案も行われている。今後は職員一人一人が手だてを徹底し指導できるようチェックを行う必要がある。	A	学年の問題を全校で迅速に対応し行動できるようになるべきである。学校が取り組むには難しいところもあるがそこに向かってよく取り組んでいる。マニュアルは作るだけでなく、不審者の対応も含めて緊急対応の具体的な訓練などを実施し、マニュアルの効果的な活用周知徹底が望まれる。
4	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	B	地域の方の作品や、生徒の美術や書道の作品などを掲示したり、地域の方からのご厚意により、彫型や各種小物などの展示も行い、「くぬぎの小路」(校内ギャラリー)や職員玄関周辺などの雰囲気も充実したものとなっている。美化コンクールも定期的を実施されているが全体的な「美化に関する意識の向上」は今後の課題である。	A	掲示物・展示物は以前より増えておりよくなっている。その掲示物について子どもはどのように考えているか、感じているか探してほしい。子どもの目線でもよりよくなっていくためにどうするか考えてほしい。昨年より学校はきれいになっている。清掃活動、環境美化の意識づけを今後も図ってもらいたい。学校をきれいにすることは教科指導への取り組み以上に大切であるとの意識が必要である。

評価項目「基礎学力の徹底」

	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
5	児童生徒は、落ち着いた状況の中で、学習内容を理解しようとしている。	C	「新座中学学習スタイル」の意識化、補習の実施、学習の悩みに関する指導など、努力しているが、全生徒への徹底という点では学年により差があり、また個人差も見られる。家庭や保護者との連携を進めながら落ち着いた状況を作っていきたい。また、No.7との関連を図りながら進める必要がある。	C	学習に落ち着いて取り組む姿勢は教室によって差があると感じる。教師の意識を更に高めてもらいたい。学習への意欲の低い(寝ている)生徒が見られる点は気になる。学校だけの問題ではないので、保護者が授業参観や見回り等で子どもの状況を把握することも必要である。また、朝食をとっていない生徒が1割近くいることは学力向上に大きく影響することから問題である。
6	児童生徒は、目的や内容に応じて自分の考えを明確に文章を書くことができる。	C	生徒の中には書くことを面倒がってできない子もいる。また、書くことはできるが文章化できない、書き言葉と話し言葉の区別ができないなど個人的な差が大きく、課題となっている。これを解決するためには、書く指導において、各観点を明示したり、どんな目的で書くのか、どんな内容を書くのかなどきめ細かい指導が必要である。	B	自分の考えを明確に文章に表すことは、新座中の課題であるが、暗唱大会では優秀賞を得た生徒もいる。先生の努力は少しずつ実っている。言語活動の充実はこのからの課題でもある。国語の時間に限らず、全教科領域を通して、書く機会を増やし、継続的な指導、取り組みを進めてもらいたい。
7	教職員は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	研修委員会と連携し、教科ごとに目標を定め研修テーマに沿って授業改善に取り組んでいる。また、学習ノートの活用、テスト前の補習、放課後の基礎的な学習など、学力向上を目指して取り組んでいる。今後もさらなる学力向上を目指して授業改善等に取り組んでいく必要がある。	B	3つの達成目標のテストなど昨年度よりよくなるなど基礎学力向上の取り組みは評価できるが、研修は取り組みを始めてまだ過程の段階である。さらに日々の授業改善に向けた取り組みは継続して進めてもらいたい。実りある研修となるように努めてほしい。
8	学校は、学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	B	「新座中学学習スタイル」や月ごとの学習目標を示して、指導を進めているが、生徒の受け止める姿勢をみると、まだ指導を要するところがあるので、今後とも継続して、共通理解、共通行動で指導に当たるよう努力していきたい。	B	学習スタイルなどの取り組みでは努力されていることがわかる。このことは、家庭とも協力を得ながら進めることで、子どもに学習への習慣化が図られる。さらに保護者の協力を要請するなど取り組んでほしい。
9	学校は、児童生徒が英会話に親しむことができるよう、教育課程特例校としての「英会話の時間」を推進している。	B	英会話の時間は計画的に実施されており、生徒の興味を引く活動も多く、生徒も積極的に参加している。実力テスト等の結果をみてもその成果が見られる。	A	小学校での英会話の取り組みは評価が高いことが多いが、新座中は、中学校としてよくやれている。またテストでの結果に向上がみられるなど成果もでていて評価できる。

評価項目「規律ある態度」

	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
10	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	B	生徒会活動を活用し、あいさつについて取り上げていることもあり以前よりもできるようになってきた。しかし、できる生徒とできない生徒の差が大きく、進んでできるまでには至っていない。教師の積極的な声かけにより、あいさつをする習慣を定着させる必要がある。	B	気持ちよいあいさつをしてくれる生徒もいれば、そうでない生徒もいる。部活で元気よいあいさつができる生徒は、他でもできているようだ。小学校より中学校へ進むことでよりできるようになっているようだ。来客者に対してはよくあいさつをしてきている。「挨拶埼玉 1」のスローガンの下、教師から声かけし、家庭・地域でも働きかけるようにしてほしい。
11	児童生徒は、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができる。	C	様々な機会をとらえて指導しているが、まだまだ不十分であると大半の教員が認識している。その場その場での指導を全職員で心掛け、繰り返し指導を行うとともに、保護者に啓発を行い家庭と連携を図る必要がある。	B	職場体験などではしっかりできていると報告がある。外ではできるといことは、生徒と先生の間の問題と考えることもできる。生徒が使い分けしているのなら、友達感覚になる点は指導をしていかなければならない。日本語の使い方を含めて、保護者や地域も交えて、手本となって指導すべきである。
12	児童生徒は、いじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送っている。	C	大半の生徒が「いじめが悪い」という認識をしているが、自分の世界でしか考えられず、お互いの良さを認めるまでには至っていない。良好な人間関係を形成するためにも、さらに道徳や特別活動を活用し相手を思いやれる心を育てる必要がある。	B	子どもはいじめはいけないと分かっている。どうやって先生がキャッチできるか考えてほしい。いじめに関わる生徒の割合は少数であっても重大な問題だから、教職員は「C」と自己評価されているのであろうが、大方の生徒はよくやっている。リーフレットの配布と指導やアンケート調査など、どうキャッチするか対応を進めている点は評価できる。
13	教職員は、自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	言葉遣い、人への接し方、礼儀作法など手本となるようとする意識が高いが、大人としての接し方が甘くなっているところもみられる。さらに全職員で共通理解を持って取り組む必要がある。	B	よくやっているが、服装・言葉遣いなど、手本となることは、さらに全教職員が共通認識をもって取り組んでもらいたい。

評価項目「健康・体力の向上」

	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	児童生徒は、体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組んでいる。	B	体育の授業では、年間を通して体力向上を意識した運動を毎時間取り入れ、単元でも長距離走を学校選択とし総力向上に努めている。スポーツテストで県平均を上回る項目が学年があがるにつれ多くなっている。各運動部の活動を通して体力作りに取り組んでいることも結果の向上に結び付いていると考えられるが、運動部全体としての計画は不十分である。	A	結果は少しずつではあるがよい方向に出てきている。県の平均を上回ってきている点も評価できる。部活動の充実をはかるなどさらに取り組みを進めてもらいたい。
15	学校は、栄養バランスのとれた規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	B	食事の大切さについて保健便りや給食便りで知らせている。また、献立についての説明など、栄養と食事についての啓発活動を行っている。今年度も食生活についてのアンケートを全生徒、全家庭対象に実施し、実態を把握し、来年度に向けての課題をつかむことができた。	A	給食は大変おいしく、すばらしい努力をしている。併せて朝食・睡眠などの生活リズムを定着させるなど、家庭への啓発や指導も大切であり、食に関する意識を高める指導をしてほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	教職員は、PTA活動や地域活動に関心をもち、保護者・地域と協力している。	B	PTAの除草作業や地域の夏祭りへの協力を行っている。野火止クリーンキャンペーンは地域と連携し、多くの教職員が参加している。今年は、学年職員と役員との懇談会や茶話会などコラボレーションパワーの強化が図られた。さらに、多くの保護者と信頼・協力体制を築いていく必要がある。	A	地域活動やPTA活動について、先生方は忙しい中で余力の部分で協力してもらっている。時間を割いて動いてもらえる先生の気持ちを感じる。学校から見回り依頼や懇談会要望など連携を進めたいと考えている気持ちが伝わる。野火止クリーンキャンペーンが広まりを見せている。これは今後も進めてもらいたい。
17	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について定期的に情報提供している。	A	毎月の学校便りの発行に加え、地域の町内会への配布など本年度も継続して行っている。また、ホームページ、学校便りや月行事予定を毎月発行し部活動の様子や諸入賞者紹介、学校行事についても順次更新することができた。今後もさらに活用できるように創意工夫する必要がある。	A	学校の様子がよく分かる。学校だよりがわかりやすく、読みやすい。文章や言葉が受け入れやすく工夫を感じる。写真などもよい。読み手を考えて作成することが大切である。
18	学校は、保護者や地域と連携し不審者対策のバトルや声かけ運動などを計画を立てて定期的に実施している。	A	校内については、保護者による見回りが定期的、日常的に行われている。学期ごとの職員による学区内の下校指導を実施している。朝の声かけ運動は毎回参加数も増えている。校外の不審者対策等については、具体的な実施計画を検討する必要がある。	A	声かけ運動や校内の見回りなどよくやれている。見回りは以前から継続していることだが、みんなで取り組むことを決めてやり続けることは大切なことである。